

朝明けの田の面の薄氷割りつつに蘭植ゑす人らはやありにけり  
戸を開けてすなはち向ふ枇杷の木の花しらじらと朝しぐれ空  
茶の花は冬陽のなかにうす甘し小蛇らあまた下ごもりつつ  
風がはこぶ雪さらさらと朝庭は萬両の實の赤かりにけり

隣家の糶摺る音のひびきつつ午すぎてよりつひに曇りぬ

春日光照りしづもれる瀬戸の海の未だも寒し青き潮騒(國立公園鷺羽山三首)

磯山の木の間ゆたてる千鳥かも高くは飛ばすこゑすくみ鳴く

うらうらと麥生明るく照り和みすでにしひばり高鳴けるなり

ひさしくを大忠の微望達せずとおのれ厳しく説きすすめつつ (日蓮上人)

勅語奉讀にも居眠れる多しうつつとなにを夢みるこの人らども

霜け田の水に照りしむ日のぬくさ蘭草は青く芽にたちにけり

植ゑつけししさはまろ葉の顯たぬ間に吾れ岡山を去るべかりけり(三月十日)

### 煩悩讃歌

後藤龍子

ひたすらな昂に驅られ歩む道さるすべりは紅く花咲きてをり

さるすべりの紅き花瓣に燃えつきて我執さながら陽は照れりけり

思念いまに對へるものを超えにけりカンナの花の血ともゆる晝

咲き照れるカンナの花にむきたちて美を認めしはいつよりなるか

日没の照り衰へて風吹けりうつつとおもふわが肉體に

日ならべて降る雨寒く秋に入り聾者のごとく夜々をこもりぬ

空罐に花植えて愛で育くむは趣味ならねども樂し朝朝

下さい。」と言つた時父は兩眼から涙を  
はら／＼と流して、「そうか。そんな  
に悪いのか。よし暫らく待て、今すぐ本  
行様に御願して来るからな。」それから  
物の一時も經たない内に父は本行寺上人  
を伴つて歸つて來た。上人は酸素吸入を  
して居る私の衰弱しきつた姿を見て驚か  
れた様子であつたがやがて御經を訓讀で  
靜かに讀み始めた。今迄母の信仰を馬鹿  
にして居た私も此の時ばかりは泣かずに  
居られなかつた。この御經を便りとして  
冥途に逝かなければ他に便るものとてな  
いと思ふと上人の御經の一聲々々が全身  
に滲みわたるのであつた。「妙法蓮華經勸  
持品第十三……」

此の經文の意味、それは今を去る三千  
年前、大聖釋迦牟尼佛が印度に仰入滅の  
際御弟子方を集め給ひ「汝達よ吾久しか  
らずして世を去るべし。されば吾がなき  
後に我に代りて如來の使となり三惡道の  
衆生を教へ導きてその苦しみを救ふは誰  
ぞ。」と尋ね給ひしとき。藥王菩薩、樂  
說菩薩その他御弟子の方々が世尊の御前

大輪の菊冷々と咲きてあれ齒を磨ぎつつも唇つめたかり  
 朝々を散る花あればおのすから生きゆく意識きびしかりけり  
 蓮池に蓮の花咲く清らかな朝の目覺めを欲りて久しき  
 冬枯れの山のへに佇ち濃濫の海見ておしが悔となり來つ  
 夜の庭を歩む仕様なぞすべもなし他郷の山に圍まれてゐて  
 閉まりし部屋に香をこめて藥草を煮をれば寒き霜夜にも似き  
 樹々の葉の様に散る冬にむきすまじく心荒るゝ思ひす  
 郵船俱樂部の屋上を今し離れたる眞晝の月は海にかたぶく

夏秋山麓居詠草

石川國武

初夏のけはひとなりしこの夜ごろ肌をぬぎては風にふかるる  
 杉むらにたちこむる霧木の間ゆも這ふとこそすれわがゆく道に  
 霧ふかみ水戀鳥の聲絶へし靜寂のみちをわけは歩みつ  
 かなかなのこゑ親しもよ松ヶ枝に暮れなすむ陽のひかり残れる  
 棕櫚の葉にふく風ありて動かざる山の上の雲のゆゆしきをみつ  
 わたる日に空は照りつつ山の邊に凝る雲見れば炎暑おもほゆ  
 窓の邊の楓にふきくる風をさへうれしみ思ふ暑き家居に  
 夕ぐれの明るみにして廣原に遊ぶ童らが見ゆ旗うち振りて  
 すかし見るすだれの外はすがすがし照りわたる月の白く光るも  
 夕づきし深山の森に鳴く蛸の聲まれになりぬ夏ゆくらむか  
 夕づきし葡萄の棚にふさぶさと垂るつぶら實の靜けさに居り

に進み出て「お釋迦様決して御案じ下さるなよ。如來なき後二千年。末法濁惡の世とならば、吾等必ず佛の使となり慈悲の衣に堪忍柔和の袈裟打ちかけて命を的に法を説くべし。大難も來らば來れ。世の爲一切衆生の爲捨つる命、など惜しからん。吾はこれ佛の使なり。衆の前に恐るゝ處なし。」といふのが此の經文の意である。何といふ強い力のある言葉だらう。つら／＼世間を眺むるに生あるものは必ず死す。尊きも賤しきも皆この道理から逃れる事は出来ない。定められたる運命の前には全世界の權勢を以つてしても、千萬無量の金力を以つてしても一分時の壽命すら伸ばす事が出来ない。生老病死の苦しみは何人も絶対に逃れる事は出来ない、生れ乍らに背負つて來る運命なのである。どうせ死ななければならぬいとすんならば短かい生涯を、親を苦しめ世を呪ひ地獄に墮ちてかくも苦しみに悶えつゝ死んで行くよりは、此の御經に書いてある様に、いつそ佛の使となり人を救ふ爲に命を捨てた方がどれ程幸福であ